

経済・金融 フラッシュ

中国の5月経済統計:

経済調査部門 主任研究員 三尾 幸吉郎

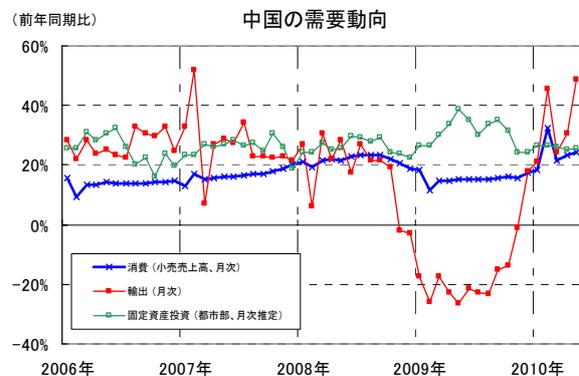
TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

1. 投資から消費への流れが継続

中国では5月の主要経済指標が先週相次いで発表された。図表-1の需要動向を見ると、輸出額は前年同月比48.5%増と大幅な伸びを示し、消費動向を示す小売売上高も前年同月比18.7%増と前月の18.5%増加を上回った。一方、昨年大幅に増加した固定資産投資（都市部）は1-5月累計で前年同期比25.9%増と1-4月累計の26.1%増から減速した。

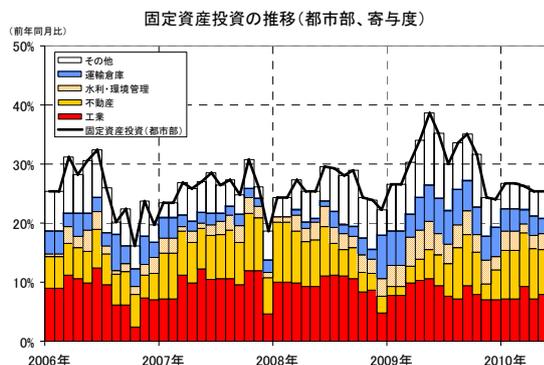
図表-2に示した固定資産投資の内訳を見ると、昨年大幅に増加した運輸倉庫や年初から増加していた不動産が若干寄与度を下げ、政府支出の大幅増加が見込まれる水利・環境管理が前月から若干寄与度を高めた。また、工業の寄与度も上昇したが、5月は海外からの直接投資が大幅に増加しており外資系企業の貢献が大きいと見られる。他方、4兆元の景気刺激策の期限切れが今年末に迫るなか、国有企業から私営企業への牽引役のバトンタッチが期待されているが、5月の私営企業の固定資産投資は伸び悩み（図表-3）、製造業購買担当者景気指数（PMI）も5月は53.9と前月から1.8ポイント悪化したことから、バトンタッチの進展はもう少し先になると見られる。

(図表-1)



(資料)CEIC
(注釈)固定資産投資の月次データは発表されないため当研究所にて推定

(図表-2)



(資料)CEICのデータを元に、当研究所で作成

(図表-3)



(資料)CEICのデータを元に、当研究所で月次データ加工

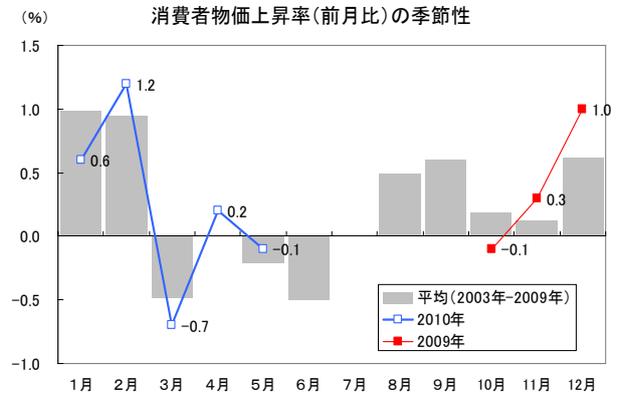
2. インフレ懸念は和らぐも火種は残る

5月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比3.1%と4月の同2.8%から上昇率が拡大した。図表-4に示した消費者物価上昇率（前月比）を見ると、4、5月は2ヵ月連続で過去平均を上回っており、また食品とエネルギーを除くコアで見ても5月は前年同月比0.9%と前月から0.2%ポイント上昇率を高めているため、景気過熱によるインフレ圧力は徐々に高まってきていると見られる。

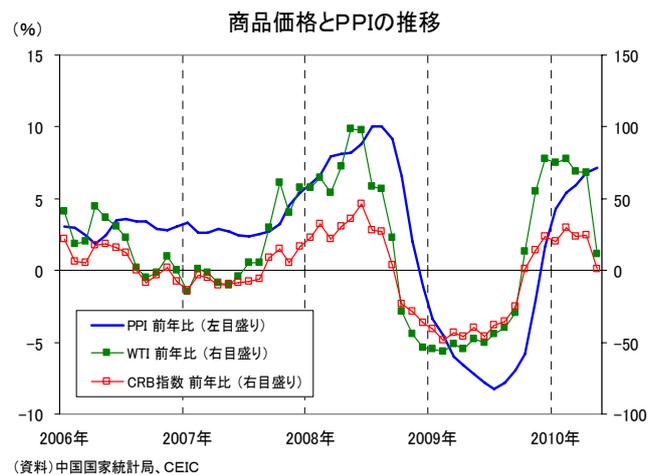
一方、5月に懸念が高まった欧州の財政問題を受けて原油等の商品価格が下落してきた。図表-5に示した商品価格と工業品出荷価格指数（PPI）の関係を見ると、5月のPPIは7.1%（4月は6.8%）と上昇を続けているが、5月のWTIやCRB指数の下落は数ヵ月のラグを置いてPPIに影響する傾向があり、このまま商品が下落を続けると、夏場には物価上昇が止まる可能性もでてきた。

このように、中国のインフレ懸念は景気過熱による上昇圧力を商品価格の下落が緩和したが、景気過熱が続く中で商品相場が反転するとインフレ懸念が再燃し兼ねない状況と見られ、当面は注視する必要があるだろう。

(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。